

令和4年度 第1回 掛川市総合教育会議 議事録

- 日 時 令和4年10月26日(水) 午後3時から午後4時30分まで
- 場 所 掛川市役所南館(教育委員会)2階 会議室
- 出席者 構 成 員 久保田市長、佐藤教育長
戸塚教育委員、橋山教育委員、岩尾教育委員、馨教育委員
- 市出席者 石川副市長
企画政策部 平松部長、戸田政策官
文化・スポーツ振興課 山田課長
こども政策課 大石課長
こども希望課 石田課長
教 育 部 山梨部長、鈴木政策官
教育政策課 尾崎課長、水谷主幹兼教育政策係長、太田指導主事
こども給食課 鈴木課長
学校教育課 柳瀬課長
図書館 後藤館長
- 事 務 局 企画政策課 深田課長、新貝地域創生戦略室長、藤田主査、岡本主任

1 開会

2 挨拶

久保田市長

皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、4名の教育委員の皆様方におかれましては大変お忙しいところご出席いただきありがとうございます。

今年度の第1回の総合教育会議のテーマは、事前に教育長と話をを行い、ざっくりばらんに、あまり固まったテーマを決めずに、フリートークとさせていただきました。

教育環境を取り巻く最近の動きだけを振り返ってみても大変様々なことがあります。まず先週10月18日、教育長とともに出席して参りました、小笠高校で行われた県教委の話ですが、横須賀高校と池新田高校の統合の計画が今後どうなのかということ、静岡県の池上教育長から再編案自体を白紙に戻す、という話がありました。これは掛川市がこれまで主張してきたことが認められたと考えております。

それから本年の7月から9月にかけて学校再編に関する小中学校の話は、9中学校区での話し合いを一周やらせてもらったところです。学校再編については、協議をスタートし、これから進んでいくこととなります。今年度は29地区の地区集会をしますが、昨日中地区に伺いましたところ、中地区から、中小学校がなくなった後の広域避難所はどうなるのか、あるいはその学校の施設の活用について市の考えを伺いたいと、まだ中小学校が無くなることは前提ではないのですが、地域の方でもいろいろ考える中で学校再編も構想のひとつとして捉え始めたのかなというふうにも感じているところがございます。

それから学校再編そのものと直接関係はありませんが、中学校の制服の検討を別途進めていますし、それから部活動については、部活の地域移行を他の地域より先行し

て進んでいるということでもあります。

さらには当然DXについても、今日はDX担当の石川副市長も参加していますが、子どもたちはもうとっくにDXに慣れ親しんでいて、我々が教えてもらう側になっていると思います。このように、教育現場にもDXが日常化している意味でも、様々な環境変化がありまして、まさに100年に一度の大変化の中に私どもがいるのかなど、思っているわけです。

そういう中で、これからの掛川の教育をどのようにすべきか、教育大綱の話もありますが、様々なことについて、ぜひご自由に、ご意見なり、お考えをお伺いできればと考えているところでございますので何卒よろしくお願い申し上げます。

3 協議事項

(1) 教育環境を取り巻く社会情勢等の変化について

山梨部長

【資料1-説明】

教育長

掛川市の教育DX、教育の構造改革についてですが、これは新型コロナウイルス感染症が流行する前の今から5年前くらいに、私が何もないところから、教育のDX、SDGs、またデジタルの関係を進めていかなければならないという考えの中で、本来教育の中でDXとは何かと考えたときに、今後こういうことをやっていかなければいけないという柱となるものをいろいろ書き上げていました。資料の掛川の教育DXは、これを図に整理したものです。

掛川市の教育DXは、「教育の観の転換」ということからスタートする中で、何をすべきかということで整理したのですが、今この中で今一番やらなければならないのは、学校の再編です。それと合わせて、学校の部活、制服やLGBTQへの配慮など、社会情勢の変化への対応に教育委員会も追われているというような状況です。

今、教育委員会で行っていることが、本当にこれでいいのか、もっと進めなければいけないのではないかと、もっと他の先進的な事例を学んで、掛川にもとりいれていかなければいけないのではないかと、常に考えています。

教育の方針は、教育大綱が大きな理念としてありますが、十分に対応できていない。しかし、教育大綱の変更は時間がかかるため、変化の早い教育現場への対応や教育の構造改革のため、教育振興計基本計画を見直しながら、対応しています。それでも社会情勢の変化には追いついていないと、危機感をもっています。

市長は、将来の掛川を長く見据えた中で、教育のことも考えて取り組まれていらっしゃると思います。また、石川副市長もいらっしゃいますので、何かアドバイスいただければと考えています。

少し驚いていることですが、最近、政令市や他県から掛川市に視察に行きたい、という依頼があります。ひとつは、地域部活動、それと今年出しました幼児教育を学校教育につなげるジョイントブックについて、詳しく勉強したいということでの依頼です。これらの取り組みが、果たしてどの程度進んでいるかは、自らではわからないので、お話を聞く中で、また取り組み状況の確認を行い、前向きに変えていけるのではと考えています。教育大綱もいろいろと修正しながら理念形成を進めていきたいと思

っています。

併せて、全国的な課題で特別支援の課題があります。その子にとってプラスになるような適切な支援を十分に行いたいのですが、どちらかという、その子をどのようにして守るか、最大限今できることの対応にとどまっている状況です。本来は、だれひとり取り残さない、教育の在り方を実現しないといけないと思います。これは、市単独で行えるものでもなく、国、県も含めて考えていかなければならない。

一方で、グローバルへの対応についてですが、掛川市はローカルな部分で、地元愛は強い教育ができていますので、グローバルな方面への取り組みに視点を置く必要があると感じています。資料の「Eジャーナルしずおか」で紹介された、国際バカロレアのようなものを掛川で出来ないかなど大きな視点を持って、掛川の教育を進めていく必要があるのではないかと考えています。今のことで精いっぱいということもありますが、先を見据えての教育の構造改革について、共有を図りたいと思います。

市長

今の環境の変化とか、子ども主体の学びへの転換などは、いいことだと考えています。従来からも目指していたものであったと思いますが、技術などの面でできていなかったのではないかと、技術や環境が追い付き、本来の学びができるようになってきました。子ども達が、学びを自ら求めることができるようになったのは素晴らしいことと感じます。

高校生を見ても、地域課題に対する貢献意欲が強く、驚きの目をもって見えています。そんなこれからの時代を作っていく子どもたちに期待しています。日本の経済的な事情など、グローバルな視点で見たときに暗いイメージがあるかもしれませんが、主体性をもって、子どもたちが取り組める環境を作ることが我々の責任と考えています。

委員

コロナ禍における子どもたちの行動制限は気の毒な状況にあります。遊びでも学習でも一緒になって対面で交流できない。一方で、人と会わなくなって、オンライン、ICTの技術、ハードウェア・ソフトウェアともに発達してきました。国際という点では、海外とつながるきっかけになり、空間を超えての可能性が広がっています。また、学習もやる気があれば、時間に縛られず活用できることから、可能性については広がっていると感じています。

今日の静岡新聞に、静岡市の小中一貫教育が記事となっています。京都の大原学院は小規模でも、地域コーディネーターが積極的に取り組まれてきています。コーディネーターの方に「学校が小さくなることに対してどう思われるか？」と聞いたところ、異年齢集団によるコミュニケーションができ、広がりを持つことができたとおっしゃられていた。掛川市の構想では、小さな学校を残すことは難しいかもしれないが、小学校、中学校の交流を進めていく必要があると感じます。より日常の中でのつながりを持たせることが必要と思います。

学齢期の子どもがいる世帯は、10軒に1軒程度なので、年配の方の学校教育との関わりが希薄になっています。大須賀地区では、昔は、町民運動会を大人も子どもも一緒に関わってきていましたので、そのようなイメージで、地区と学校がより関わった実質的な学園化ができればと考えています。

教育長

京都の大原学院では、地域と学院が一体で取り組んでいる様子が感じられました。掛川市では地域学校協働活動を進めて、学園ごとに地域コーディネーターを置いています。地域コミュニティと活発に活動するには、時間がかかると感じています。

一貫校になれば進んでいくと思いますが、22 小学校、9 中学校を施設一体型にしていくには時間がまだまだかかります。環境が整ったところから進めていくとしても、待たなければいけない子どもたちにとっては、どうかという思いもあります。並行して教育の中身については、最先端を取り入れて、教育の中身の濃い、質の高い教育を進めていきたい。

委員

私は地域コーディネーターを務めていますが、地域の方が毎年変わってしまうことはコーディネーターとしては悩みです。いい光景というものはある、コロナ禍前に行っていた、8月の一斉清掃では、中学生が司会等を行い、清々しく、地域のいい雰囲気を出していました。地域と教育のつながりがとしては理想的なものできていたと思います。4月に地域の組織がリセットされてしまうことは課題と感じています。地域づくりをするつもりで学校に関わることが地域コーディネーターの役割だと思います。先日、元裾野市議の小田圭介（おだけいすけ）さんから聞いた話では、子どもたちに、大人が積極的にインパクトをもって関わらなければ、時間がたった時、子どもたちが30代40代になったときに、大人に関わってもらえるだろうか、と話をしました。そのためには、子どものときに地域の大人に楽しく関わってもらっていた感覚が必要ではないかと、おっしゃられていました。掛川市の学校と地域の関わりは周りから見たら、うらやましい状況にあり、高評価を受けているので自信をもって良いと思います。ただ、地域の組織は、毎年人が変わってしまう、連動した動きを進めるためには、もったいないと感じています。学校教育、地域の中核になるまちづくり協議会の積極的なかわりを進めていけない。二十歳の集いも、一体感を持たせられるようなイベントであってもいいのではないかと。地域交流的なもので、つながりが復活することにつながるか。運動会や、一斉清掃がそういうもの、地域や組織に頼らない、でも地域でも交流ができることがよいと感じます。

教育政策課

東山口地区では、まちづくり協議会が、清掃活動を10月に学校と一緒にやりたい、という要望で、一緒に行っていた経緯があります。

委員

地域との連携ということであると、近隣の家に子どもがいることを知っていますが、名前や年齢を知らないなど、地域とのつながりは、薄くなっていることも感じています。京都の大原学院は、地元の声がかきかけで、小中一貫校への取り組みにつながったと聞いています。市から、県から、となると、反発が起こる、ボトムアップで行えることがスムーズにできることだと思います。課題は、そのボトムアップするスキルがあるか。プロジェクトは計画があつて、進めていくものである、教育大綱の5つのプロジェクトで、何がどの程度進んでいるかなどを見せることで、市民に知ってもらい、関心を持って、自分は何をできるか、行動につなげていくことも必要ではないのかと感じます。

立派なものがあつても、それだけでなく、反省も含めて、期間ごとにチェックを行っていく、報告をしていくことが必要と感じます。

教育長

（人間関係など）縦と横のつながりを作っていく仕掛けを行政は意識していかなければいけない、世代の抜けたところの繋げる人材づくりが必要です。今までは、優秀な人材ばかり育ててきた、これからはグローバルでもあるため、有能な人材を育てないといけないのではと。やらなければならない課題は、たくさんあり、地域部活動などは、基礎自治体が先頭を切って進めていく必要を感じています。教育現場もICTを

はじめ、いろいろ取り組んでいます、市民の声を聴く機会が少なく、不安に思うことがあります。

(高校の再編もそうだが) 残すことは良いが、そこから新しいものが生み出せるか、守るばかりに目が行ってしまいますが、発展性というところに目を向ける必要があるのではと感じます。

委員

グローバルハイスクール構想の取り組みを行っていた高校では、教員もどんどん新しいことにチャレンジするというので、大変であると聞いています。高校でも生徒たちに何をやらせたいか、と考えるときに、資金を確保するために県や、国に行くことになっています。立派な研究を行っている小中学校の先生はいるので、そういった取り組みを発信しながら、先生方の支援等も必要です。

教育長

資金を取りに行くという姿勢が必要な時代と思っています。せっかく良いものを持っていても、それを発信していくことも必要です。財源は難しいところもありますが、将来性も考え、教育には財源を充てていく必要があります。

市長

学校再編も財源の視点は必要で、効果的でメリハリのある財源充当が重要です。

委員

京都の大原学院で驚いたことは、放課後に小学生の面倒を見ている若者がいて、その子は学校が好きで学校に来ていると聞きました。小さい学校であっても、幼稚園から大学まで含めた、支援やつながりがあってもいいのではないかと。震災をきっかけに、大学生が財政的に困難な子に支援を行うなどの起業した例もあります。青年会議所のジュニエコは、起業体験をとおして、達成感を得られる活動のきっかけとなっているのではないかと考えています。そして、ゆくゆくは素敵な大人になっていくと思われれます。ただ、そのような子がいつの間にか掛川からいなくなっています。(進学のために県外に出ていくのだと思いますが)やる気のある、積極性のある子どもたちを応援できるようなチャレンジ予算的なものがあったら、素晴らしい大人に育ってくれるのではと期待します。

大人では、義務的に地区役員を引き受けて、地区行事を処理している感覚がでます。お祭りも、やった地区、やらなかった地区もあり、子どもたちのやる気をそぐような行動を大人が行っていないか。逆に、子どものやる気を見ると、大人たちはその姿を見て反省します。

教育大綱を作ったときには、新しいと感じたが、今になると古臭くも見えます。つなげていく難しさなど、資金的な折り合い、子どもたちの将来についてなど、どこかで考えていく必要があると思います。

掛川市が生涯学習のまちであることも、生涯学習のまちであるシンボル、意気込み、子どもたちにやる気を出させることができればと感じています。

教育長

私案ですが、土曜日の教育活動の推進ができないかと。地域の方も土曜日は休みの方も多いので、協力してもらって、学校外活動、グローバル活動などができないか。今でも土曜日に授業参観等行っていますが、そうではなく、子どもが学習活動を広げられる機会をつくりことをやっていかないといけないのではないかと考え、着手できれば素晴らしいと考えている。

委員

児童生徒の主体的な学びということですか。

- 教育長 教師は、授業の中で学びを深めようとしています、いろいろなところに助けを求めて一緒に進めていくことでいいと思います。コンダクターでなくて、ファシリテーターとして、よい所を引き出していく役でもいいと思います。
- 市長 部活動の地域化を今進めています、地域の大人が指導役になっていくわけですが、これは、部活動だけでなくいろいろなものにつながるもので、掛川は、子どもたちの取組みをみんなで応援していく地域であります。来年度予算で職員にチャレンジ枠での事業を募集していますが、そういったことで、子どもたちの取組み・チャレンジを応援したいという大人は、市役所以外でもいるのではないかと、我々(大人)が、子どものチャレンジを応援しているよ、っているのを示せるような仕組みを作って、メッセージを送ることをしていきたいと思います。
- 委員 クラウドファンディングが当たり前になっている時代で、面白いことをやっていると思うことを、応援したいって行動につながっています。
- 市長 子どもへの仕送りなどにも電子マネーが普及してきており、応援したいという気持ちの表し方にも、クラウドファンディングも利用されています。
- 委員 土曜学習については、土曜日の習い事を行っていくということもあるので、変えていくことができるかはわからない。ただ、子どもが減っている中で、(進学等で)掛川を出る子ども、残る子どももいます。掛川に残る子どもたちにとって、土曜学習は、掛川市への満足度は上がるのではないかと思います。掛川工業は求人が多くある、一方、特別支援学校では、求人が少なく困っている、支援学校の卒業生が本当に就職できない、能力が本当はないのか、など悩んでいます。若者の市外への流出の状況もありますが、流出を止める施策もあると思いますが、掛川市に対する満足度を高めるとか、面白く見てもらえるような地域づくりに期待したい。
- 委員 掛川工業については、ひとりについて15社の求人があります。すごい人気で、中小企業では、なかなか雇用できません。特別支援学校卒業生については、法令もあり、雇用を意識はしていますが、求人が足りないので誰でも、ということにはなりません。就労できるように育てることも意識していくことも必要だと思います。(学生から社会人へとつなげる)人とのつながりを大切にできるような人になるように育てていくことも重要かと。
- 委員 学力的に優れていても、コミュニケーション能力が低いことにより、損をするような、地域での活躍がされていないことも考えられます。会話はできるけど、気が利かない、相手の立場に立って考えられない、コミュニティの中で、育っていくことで、自然にそのような振る舞いができるようになっていければと思います。
一斉清掃・美化作業では、中学生を地域にお披露目するような機会であったので、ドキドキしながら、地域と付き合いを始めなければいけませんでした。コロナで出来なくなっているのは、残念。地域としても、重要と感じ参加率が高い行事でありました。防災訓練で、中学生が企画して、年配の方へのマッサージ実施なども良かったと思います。

市長	地域活動はいろいろな人と関わり、経験も詰めて、子どもにとって成長する機会です。
教育長	<p>教育現場としても、子どもと大人などいろいろなつながり、経験を積めるような機会を作ってあげたいと考えています。このために、学園化についても考えてきました。子どもたちの未来のために、何ができるのかな、今できること、少し時間がかかることなども考えています。</p> <p>一貫校ができれば、時間的な余裕ができるので、これまでにできなかった対応もできるのではないかと考えています。</p>
市長	<p>若い人たちが掛川市に定着するか問題はあります。もちろん定着してもらいたい。高校生のアンケートでも聞いていますが、一方では、子どもの可能性については、縛り付けてはいけないと思います。</p> <p>掛川から出る前に、地域と、地域の大人と関わりを持っていれば、戻ってくるきっかけになり、どこかで掛川を思っている機会を作れるのではないかと感じます。子どもの活躍を最大限、可能性をつぶさないようにしなければならないという気持ちも大切にしていかなければいけない。</p>
委員	<p>産業構造の変化についても触れると、日本は輸入に頼り、食糧が不足しています。今後は、輸出国でさえ、食糧自給ができなくなってきました。植物工場ではできないようなものもあるため、長期的には農業がエリート産業になる可能もあるのではないかと。今は、若者は、会社や工場のある都心部への流出が起きている。断言はできませんが、田舎の農村地域での農業が認められ、若者が戻って来るともあつてはと思うことがあります。</p> <p>子どもたちには、こういったことや社会事情、紛争（民主主義の在り方）を含めて、どう考えているかなど、子どもたちに考えさせる機会があつてもいいのではないのでしょうか。</p>
市長	時間が残り少なくなってきましたので、この機会にということはいかがでしょうか。聴講している石川副市長はどうですか。感想をどうぞ。
石川副市長	<p>外から来たものとして、掛川は生涯学習のまちづくりと一体となつて、歴史、文化が根付いていると感じます。学生からお年寄りまで、自分が、地域のために何ができるか考える、一人で出来なければ仲間を集めて、という姿勢があります。子どもたちが自分たちから何ができるかなど、地域のために行動したいという思いを感じることがあります。掛川らしい持続可能なまちづくりができるのではと可能性を感じています。</p> <p>デジタル化は進んでおり、物理的な壁はなくなっています。子どもたちがチャレンジしたい、やりたいということデジタルの力も使って、進めることはできると思います。技術の発達で可能性が伸びています。行政だけでなく、地域総ぐるみで取り組めるのでは。障がいについても、障がいがあることも当たり前、という雰囲気でも市民のWell-beingな状態で、安心して掛川に住んでいけると感じてもらえるようにしていきたい。</p>
市長	掛川市の教育の将来像について、これまでの学び舎は、子どもの主体的な学びを、

我々、大人は最大限応援できる環境を整えるかであります。これを具体的にどのようなふうにしていけるかは、引き続き検討していければと思います。これからも御協力をお願いします。

4 閉会